

科目名		授業形態	担当教員名	
失語症・高次脳機能障害学演習		講義・演習	田中 義之	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
言語聴覚士にとって必要な中枢神経系の機能解剖学について学習する。グループワークなどを通じて中枢神経系の構造・機能を視覚的にかつ立体的に理解できるように学んでいく。さらに臨床現場で必要されるCTやMRI画像の読影の基礎を学び、実際の病巣と障害像が一致できるように進めていく。				
授業の到達目標				
中枢神経系の機能を解剖と結び付けて、その関連性について説明できるようになる。 断面図を理解し、正常画像のおおまかな読影と病巣の特定ができるようになる。				
授業計画				
回	内容			
1	中枢神経系の全体像の把握（大脳・小脳）			
2	中枢神経系の血液灌流①（心臓から中枢へ）			
3	中枢神経系の血液灌流②（心臓から中枢へ、脳動脈を中心に）			
4	中枢神経系の血液灌流③（脳動脈を中心に）			
5	12対の脳神経①			
6	12対の脳神経②			
7	中枢神経系の機能①（主な伝導路）			
8	中枢神経系の機能②（主な伝導路）			
9	大脳の各部の確認			
10	側面図と断面図の関連づけ			
11	画像読影の実際①（正常画像, 失語症例, 高次脳機能障害例, 言語障害例）			
12	画像読影の実際②（正常画像, 失語症例, 高次脳機能障害例, 言語障害例）			
13	画像読影の実際③（正常画像, 失語症例, 高次脳機能障害例, 言語障害例）			
14	画像読影の実際④（正常画像, 失語症例, 高次脳機能障害例, 言語障害例）			
15	画像読影の実際⑤（正常画像, 失語症例, 高次脳機能障害例, 言語障害例）			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
実習にも役立つ人体の構造と体表解剖		三木明德	金芳堂	
脳を学ぶ「ひと」とその社会がわかる生物学 改訂第2版		森岡周	協同医書出版	
言語聴覚士のための頭部位診断図		石川裕治	エスコアール	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
絵でみる脳と神経～しくみと障害のメカニズム第4版		馬場元毅	医学書院	
自由記載	他に参考書として人体(特に頭頸部)のアトラスを参照すると良い			
備考				
本講義は前期の解剖学Ⅱで学習したことをベースにさらに深く掘り下げていく。				